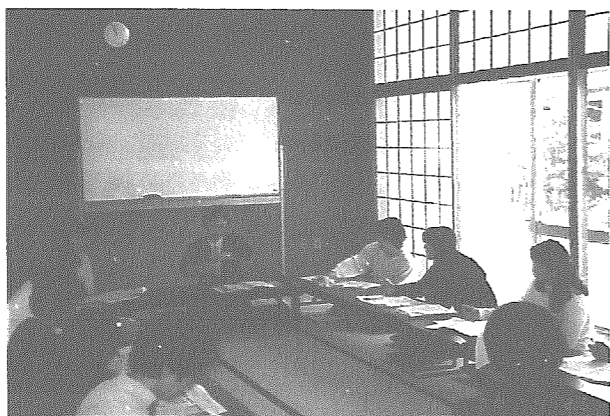




**パソコンなんて怖くない!  
中央公民館でパソコン教室開催**

5月16日から18日までの3日間、中央公民館で初心者を対象としたパソコン教室が開催され、昼・夜合わせて34人が参加しました。

参加者は初めてパソコンに触る人ばかりで、年齢は20代から70代まで幅広く、最初は聞きなれない用語に戸惑いながら、恐る恐るマウスやキーボードを操作していましたが、徐々に慣れていき、パソコンの可能性や利便性を発見して喜びの声をあげ、講座終了時には大多数の方がウィンドウズの使い方、ワープロソフト、表計算ソフトといったパソコンの代表的な機能を使えるようになりました。



**皆で子育て! “学ぶ親支えたい”  
中央公民館で「保育支援者養成講座」**

町では4年前に保育支援者制度を設けました。「公民館の講座に参加したいが、小さい子どもがいて無理」などの要望にこたえるため保育ルームを設置し、女性支援者が子どもたちの世話を当たります。

今年は12名が参加し、◎子どもの心理面 ◎応急手当 ◎子どもとの関わり方 ◎活動の中で という内容で4月から5月にかけて全4回、それぞれの専門家から基礎知識を学びました。

講座終了者の方々は横越町生涯学習人材バンクに登録し、6月からの公民館講座の保育ルームで活動していく予定です。



**年2回の地区恒例の廃品回収  
子どもたちが古紙・空きビンの回収に汗流す**

5月21日、横越中地区青少年育成会による廃品回収が行われ、地区の小学4年生から6年生の児童と大人合わせて約70名が参加しました。

この取り組みは育成会事業の一環として、春秋の年2回行っており、これまで20年以上続けています。

回収品目は、新聞紙、雑誌、段ボール、酒やジュースなどの瓶で、横越中地区(中央1~7丁目のほとんど)の各家庭をまわり、玄関先に出してもらっている古紙や空き瓶を軽トラックなどに積んで地区のコミュニティセンターへ運び、種類ごとに分ける作業を行ないました。



**町特産の長芋の良さを確かめてもらおうと  
焼山で長芋の植え付けを体験**

町特産の長芋の良さを確かめてもらおうと、AFカガヤキ農園では、長芋の植え付けから収穫までを体験する長芋オーナーを募集し、5月21日、焼山の福祉ゾーン近くの畑500㎡で種芋の植え付けを行いました。50組約70人の参加者は、ほとんどが町外の方でした。

1区画3mのうねに、約20cmの種芋10本を横に寝かせて並べ、軽く土を被せて、10分ほどで作業が終了。また、希望者には、長芋よりも粘りが強く、拳のような形をしたゲンコツイモの種芋が配られ、植え付けました。

今回植えた長芋は、半年後にオーナーたちが自分の手で収穫する予定です。



**春の味覚を楽しむ人たちが大盛況  
「竹のこフェアーフジコマ 2000」開催**

5月7日、藤山・駒込地区のJA野菜集出荷所で、「竹のこフェアーフジコマ2000」が開催されました。

このフェアは今年で8回目。天候に恵まれ、町内外からたくさんの人たちが駆けつけました。当日の朝に採れたばかりの竹の子約500kgは30分で売り切れ、お昼頃には、竹の子汁と竹の子ご飯を味わおうと長蛇の列ができるほどの大盛況ぶり。竹炭や町内産の野菜、豚肉、梨ジャムや漬物などの農産物加工品も売り出され、大変な賑わいでした。

また、クワやスコップなどを使って歓声をあげながら竹の子掘りを体験する家族連れや、地元のお年寄りから教わりながら竹とんぼや竹馬作りに挑戦する子どもたちの姿が見られました。

**環境教育と地域愛を育てることを目的に  
全校児童650名がクリーン作戦**

5月6日、横越小学校の子どもたちによるクリーン作戦が行われ、全校児童およそ650名が一斉に横越地区の各所にくり出しました。

これは、「チャレンジ21教育推進運動」の一環として、環境教育と地域愛を育てることを目的に行われたもので、昨年に続き今年で2回目。朝の9時頃から1時間、阿賀野川堤防や国道沿い、用水路沿いなど、各学年別に決められた担当地区で、子どもたちは軍手をはめて、ゴミを見つけては歓声をあげながら、ビニール袋に入れて回収しました。

集められたゴミは、燃えるゴミが11袋、燃えないゴミが5袋(それぞれ20ℓの袋)で、空き缶、空きビン、ペットボトル、タバコの吸殻、傘などが目立ちました。



「わく」で  
印付け▶



**五月晴れのもと、作る喜びや楽しさを体験  
川根谷内の田んぼで子どもたちが田植え**

5月7日、川根谷内地域公民館主催の「子ども稲作り体験事業」が行われ、約40名の子どもたちが参加しました。田んぼで子どもたちに作る喜びや楽しさを体験してもらおうと10年前に始まり、毎年実施しています。

今年も国道わきの佐久間正夫自治会長さんの田んぼ約10アールを会場に、「わく」と呼ばれる道具で苗を植える箇所印を付けた後、全員裸足になり、最初は慣れない足場に転んだりしながらも、次第にコツを覚え、歓声をあげながらコシヒカリの苗30箱を1時間半ほどで植えました。ほとんどの子どもたちは田植えが初めてで、「昔の人の苦労がわかった」と感想を話していました。

秋にはカマを使って稲刈りをするようになっていきます。

